

Cisco Unified Communications Manager Denial of Service (DoS/DDoS) および認証バイパスの脆弱性

High	アドバイザーID : cisco-sa-20080625-cucm	CVE-2008-2062
	初公開日 : 2008-06-25 16:00	2062
	バージョン 1.0 : Final	CVE-2008-2061
	CVSSスコア : 7.8	2061
	回避策 : Yes	CVE-2008-2730
	Cisco バグ ID :	

日本語による情報は、英語による原文の非公式な翻訳であり、英語原文との間で内容の齟齬がある場合には、英語原文が優先します。

概要

Cisco Unified Communications Manager (CUCM) は音声 サービスで割り込みおよび情報を露出するかもしれないリアルタイム情報 サーバ (RIS) データコレクタで認証バイパスの脆弱性を引き起こすかもしれないコンピュータ テレフォニー インテグレーション (CTI) マネージャ サービスで、以前 Cisco Unified CallManager、サービス拒否 (DoS) 脆弱性が含まれています下検分に役立つ。

シスコはこれらの脆弱性に対処するソフトウェア アップデートを提供しています。これらの脆弱性に対する回避策はありません。

このアドバイザーは [625-cucm](#) で掲示されます。

該当製品

修正済みソフトウェア

以下の製品は脆弱です:

- Cisco Unified CallManager 4.1 バージョン
- 4.2(3)SR4 以前の Cisco Unified Communications Manager 4.2 バージョン
- 4.3(2)SR1 以前の Cisco Unified Communications Manager 4.3 バージョン

- 5.1(3c) 以前の Cisco Unified Communications Manager 5.x バージョン
- Cisco Unified Communications Manager 6.x バージョン前の 6.1(2)

Cisco Unified Communications Manager (CUCM) バージョン 4.x を稼動するシステムの管理者は **Help > About Cisco Unified CallManager** へのナビゲートし、CUCM 管理インターフェイスによって **Details ボタン**を選択することによってソフトウェア バージョンを判別できます。

CUCM バージョン 5.x および 6.x を稼動しているシステムの管理者は CUCM 管理インターフェイスのメイン ページの表示によってソフトウェア バージョンを判別できます。 ソフトウェア バージョンはまた Command Line Interface (CLI) によってコマンド **show version アクティブ**を実行することによって判別することができます。

脆弱性を含んでいないことが確認された製品

Cisco Unified Communications Manager Express はこれらの脆弱性から影響を受けません。 他のシスコ製品においてこのアドバイザリの影響を受けるものは、現在確認されていません。

改訂履歴

リビジョン 1.0	2008-June-25	初版リリース
-----------	--------------	--------

利用規約

本アドバイザリは無保証のものとしてご提供しており、いかなる種類の保証も示唆するものではありません。 本アドバイザリの情報およびリンクの使用に関する責任の一切はそれらの使用者にあるものとします。 また、シスコは本ドキュメントの内容を予告なしに変更したり、更新したりする権利を有します。

本アドバイザリの記述内容に関して情報配信の URL を省略し、単独の転載や意識を施した場合、当社が管理した情報とは見なされません。 そうした情報は、事実誤認を引き起こしたり、重要な情報が欠落していたりする可能性があります。 このドキュメントの情報は、シスコ製品のエンドユーザを対象としています。